

令和元年 11月 21日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 阿部 治正様

議会報告会 4班 (東部地区)
班長 楠山 栄子
大野 富生
岡 明彦
高橋 光
笠原 久恵
加藤 啓子
青野 直

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 令和元年 11月 9日 (土)
午前 9時 30分～午前 11時 30分
- 2 場所 東部公民館 第1会議室
- 3 欠席議員 無し
- 4 来場者数 市民来場者 11人
議員・職員 1人、1人
- 5 報告内容
東部地域の諸課題・次期総合計画について

- ① 流山アクロスプラザと住宅展示場跡地間の道路の渋滞解消について
- ② 名都借跨線橋東小学校前道路拡幅工事の状況について
- ③ 東部地域の公共交通について
- ④ 次期総合計画について

6 意見交換内容

Q:国道6号線柏市住宅展示場跡地付近、交差点の要望事項として、改良が一番注力して欲しい。

四差路に見直してもらい、きっちりやって頂きたい。

A:温浴施設が建設されるということで県の許可も必要ですし、国と県と市と(権限が)いろいろんだ所になっている。

A:説明会を何回か行い、(地域内外から)意見書が提出され、事業者がその意見書を受け取って改良を検討中だ。

A: 変則五差路を解決するのは大変な事業になるが、この開発がすごくいい機会だ。

Q:松戸方面に行く車は、温浴施設を通っても良いのか。

A:松戸方面に行く車は温浴施設敷地内を通っても良い。

アクロスプラザのお客さんも松戸方面に抜けられないのではという懸念を解消する為の事業者からの提案。

Q:ここから市役所に行く足が無い。是非とも実現をして頂きたい。

A:この件に関しては、3年ほど前に市に要望書を提出している。

市は東武バスに要望したが、今現在は、運行する予定は無いという回答でした。

“グリーンスローモビリティ”を松戸市が地域で課題にして国交省迄提案して実証実験を認められている。

市役所は実証実験までもっていきたいという気持ちが有るので今が大事。

まず地域から、是非とも声を挙げてもらいたい。

そういう時に、議員がやる事が有れば使って頂きたい。
市役所へのバスは引き続き、要望していきます。

Q:足が無いのであれば、おおたかの森の方に市役所を移転する条例を作れないか。

A:非常に大きな問題なので、声としてお聞きします。

Q:東葛病院の送迎用ワンボックス車を利用して向小金小学校から市役所までのルートを確認出来ないか。

A:東葛病院の件、以前は走っていたが利用者がほとんどいなくて廃止になった。勉強会の講師も『100回の陳情よりも1回の利用』と言っている。とにかく、皆さん乗りましょう。

Q:温浴施設の(国道6号線側ではなく)線路側。

東部中学校の通学路でもあり道幅も狭いので、何とかしないと危険。

A:説明会では、ガードマンを付けて向こうに行かない様にしますと説明を受けている。危険という事で同意見です。その件についても注視します。

Q:まちづくりに関する認識について

総合計画上東部地域はどのような現状か。

設計図が示されれば東部地域の明るいまちづくりについて協力していける立場にある者同士、協調していきたい。

A:私の考えは、静かにのんびり暮らしやすい東部地域。

公共交通も配置して、皆さんが暮らしやすい落ち着いた、東部地域にしたいと、私自身は思っている。

A:例えば、旧日光街道の非常に狭い道、混雑しますね。あれも柏市との連携が無ければ、改善が出来ない。

医療、介護も、実際には、柏市、松戸市の介護施設を利用している。公共交通も同じだ。これから東部地域が変わってゆくには、柏市、松戸市との広域連携が、非常に重要。

A:新川耕地も開発が進み、前ヶ崎だけが、流山の農業の拠点で有

ると思う。

農業の地産地消もそうだが、安心した物を食べられるということとこの部分は譲れないと思っている。

A: 今回の諸課題もそうですが、諸課題を1個1個解決していく中でも、また課題がたくさん出てくる。これを1つ1つやっていく。

A: 流山市というのは、つくばエクスプレスが開通する前から住まわれていた方と、開通後に転入された方では意識が違うのかなと思う。

市政の中で気になっている事は、これは東部だけではなく他の地域、流鉄線沿線でも聞いたが、おおたかの森に集中し過ぎなんじゃないのか。

東部地域はのどかな場所が残っているので、それを活かしたようなまちづくりがいいのではないか。

A: 健やかに成長できるようなそういう地域環境を、維持していきたい。

(名都借跨線橋道路拡幅改良事業について)

Q: 当初の計画では両サイドは市がやって、真ん中はJRがやって、これを全部一体にした理由は。

A: JRの方が、(線路の)上の所だけやるという事だったが、実行部隊と話をする事になった時に、これを分けていくと、危ないのではないかという話があった。

安全運行の面で、一括でやらせてほしいという事をJRの方から言われた。

Q: 両サイド傾斜の部分も受ける事によって、3千200万円アップするのか。

A: 2年間事業期間が延びる事でその管理費が増えた。

7 参加者から議会への要望

Q: (名都借跨線橋道路拡幅改良事業について)

今現在でもかなりの交通量が有るが、令和五年度に橋が完成すると単線から複線となる。

橋を降りてきたときにT字路となる場所、流山市議会と流山市選出の県会議員に信号機設置の計画を要望します。

A: 執行部に要望していますが、実際出来た後に交通の部分で警察がみる部分も有る。

皆で意見を言っていくのが大事だと思うので、しっかりとやっていきます。

A: 名都借跨線橋のT字路の信号についても、今回付けるということが、同時に出来るかは難しい。

安心安全のためには必要だと考えるので、皆さんの意見を聞いて要請したいと思う。

A: 路面標示で文字を書くとか、色を変えるとか、信号機が付くまで待ってられないので先ずは注意喚起をするのが、早期の対応になるのではないかな。

Q: 流山市の職員にお願い。バスの運行の運転手をして下さい。

逆転の発想でマイクロバスでも良い。10人乗り、20人乗りを定期的に回れば市役所に行く足が出来る。

A: 9月の決算委員会で予算に対して、どういう使われ方をしたのか観る機会が有った。そうすると使い残しの金額が24億7千万円ある。財政は厳しい厳しいと、高齢化社会だからという事で、祝い金など細かい所を削ってきている。

身の回りの予算を、もっと身近なところを改善できる要素が一杯あるのではないかな。

Q: 市議会だよりの、評決一覧ありますね。

その議案の一覧の中で、人事案件なのに、承認された方の名前が出ていない。

A: 市民の批判を浴びないような方向で十分協議をしていきたい。

Q: この地域は、JR常磐線を沿線とした生活圏が確立されている。

特に柏市、松戸市と隣接している地域で、共通する行政サービ

スというものは、各市共有できるものがある。

その中で、最寄り駅あるいは周辺の公共施設を使って、仮に住民票がそこで取得できるとか、そういった機能を持たせるような、共通サービスの形成というのが一つの方向ではないか。

Q:市内保育園の件、テレビで取り上げられた。ここのところでのじめの問題。議員の皆さんに厳しい目で、細かい所、自分たちの地域の事もそうですし、全体の所も目を配られて注視して頂いて4年間、3年半一生懸命やって頂いて、市民の皆さんの信託を果たして頂きたい。

Q:市長が言う、安心安全で住みやすいというのなら、まず弱い立場だとか、高齢者、障がい者だとか。補助金とかほとんど、弱い人から切るんですね。議員は市の職員がやっている事をちゃんとチェックして頂きたい。

それと次に、市民の意見を聞いてくれる、聞いてもらう人になってもらいたい。

一番大切なのは、議員が年間いろんな所に視察に行っ、肌で感じて帰って来る。とにかく、議員立法を出してもらいたい。

8 所感（※五十音順）

●青野 直

流山アクロスプラザと柏住宅展示場跡地の間の道路の渋滞解消をはじめ、東小学校前通学道路拡幅整備事業、名都借跨線橋道路拡幅改良事業の事業期間変更、そして大きな課題となっている東部地域の公共交通について、情報提供をしながら出席者と意見交換が出来たことは良かったと考えています。

議会報告会の課題等を反省し更に充実した意見交換の場とすべく研究を重ね、満足度を高めてまいります。

●大野 富生

流山市に転入して8年目になりますが、市議として市民として

初めて議会報告会に参加しました。

市政の課題を市民の皆さんと共有化する為、有意義な会だったと考えます。

指摘、要望、市民の皆さんから頂いた意見を市政に生かせるよう取り組みたいと考えました。

時間が限られた中での報告会、今回の4つのテーマはどれも市民にとって関心のある内容ですが、次回以降テーマを幾つ取り上げるか、テーマの内容と合わせて事前の打合せで検討すべきかとも考えます。

●岡 明彦

議員になり初めての議報告会になります。

地域課題の問題点を抽出して、4人の議員から課題説明や議会として、今後、取り組んでいくべき事を市民の皆様にご理解いただけたのではないかと考えております。

また、市民の方からは様々なご要望やご指摘をいただきました。議会として注視していく課題については、しっかりと議員として取り組んで参りたいと思います。

●笠原 久恵

今回、東部地域の課題と次期総合計画について議会報告及び意見交換を致しました。次期総合計画については、東部地区のこれからのまちづくりについての質問などがあり、課題については、やはりとても関心が高く、それぞれの発表項目に質問がなされました。議会として地域住民に寄り添ってこれからも安全対策、快適な暮らしを実現しなければと感じました。

●加藤 啓子

議会報告会も会を重ねるごとに市民の皆様の市政に対する関心の深さや、課題と一緒に解決したいという姿勢が伝わり、深みのあるものになってきており、継続の成果が出ていると思う。

特に今回は、地域別に地域の課題を取り上げて報告したため、

皆様にもより興味をもって聞いていただけたものと思う。

テーマが多過ぎて駆け足になってしまった事は残念で、他の班のように、2つくらいに絞った方がよりよかったように感じた。

広報公聴の議会だよりに関する質問や議論結果を調べて返事をしたいと思う。

●楠山 栄子

議会報告会も18回目を迎え、議員も市民も共に学び、共に前に進んでいるという実感を受けました。議会報告会を始めた初期のころは「幾分ピリピリした空気」を感じた（複数の声）が、回数を重ね、18回目の今回は、「議会をしっかりとみていますよ」という市民の厳しい目線も感じながらも、議員、市民共に、穏やかに、建設的な対話の積み重ねとなりました。

議員と市民の関係が対立ではなく、共に前に進む関係ができたら理想だと考えます。

●高橋 光

議会報告会に初めての参加になりましたが、市民の皆さんと市政に関する意見交換ができる貴重な機会になりました。今回は東部地域の問題提起で、交通関係が多かったのはそれだけ関心があることを認識しました。

特に、向小金地域の足の交通の確保をどのように解決していくか、学習会も行われていますので、地域に見合った方策を考えていくことが大切です。これからも交通の安全・安心の取り組みをしていく重要性を感じました。

その他にも東部地域の高齢化が進んでいる中で、介護や空家対策も必要になっていると思います。

市民からいじめ問題の意見も出されて、その解明と対策も大きな課題となりました。

人口増による流山市の様々な課題が山積していますので、一つひとつ粘り強く解決に努力していくことが重要です。